



2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2025年2月13日

上場会社名 株式会社ステムセル研究所 上場取引所 東
 コード番号 7096 URL <https://www.stemcell.co.jp/corporate/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 崇文
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 谷 勝弘 (TEL) 03-6811-3235
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の業績 (2024年4月1日~2024年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	2,040	8.3	358	0.7	367	2.4	339	33.3
2024年3月期第3四半期	1,884	19.4	356	36.2	358	36.1	254	48.0
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2025年3月期第3四半期	33.18		—					
2024年3月期第3四半期	24.88		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	7,180	2,677	37.3
2024年3月期	6,543	2,692	41.2

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 2,677百万円 2024年3月期 2,692百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	25.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	0.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の業績予想 (2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	20.9	600	45.0	600	43.8	500	60.8	48.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2025年3月期3Q	10,246,600株	2024年3月期	10,246,600株
2025年3月期3Q	81株	2024年3月期	46株
2025年3月期3Q	10,246,544株	2024年3月期3Q	10,246,554株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は「あたらしい命に、あたらしい医療の選択肢を。」をコーポレートスローガンに、産婦人科施設との強固なネットワークを活用し、再生医療・細胞治療を目的とした「さい帯」や「さい帯血」等の周産期組織由来の細胞バンク事業及びそれらの細胞等を利用した新たな治療法、製品の開発を行っております。そして、この事業基盤をベースとして再生医療やフェムテック等関連する領域での事業開発及び投資等によるサステナブルな成長と社会への貢献を目指しております。

当第3四半期累計期間においては、当社の中期的な経営目標である保管数20,000検体（国内出生数に対する保管率約3%）に向け、主要なマーケティングチャネルである、医療機関でのスピーチ及びPR等のリアルマーケティングと、オンライン広告及びSNS等のデジタルマーケティングに加え、メディア向けの広報活動に注力いたしました。

一方で、検体数（さい帯・さい帯血の合計）は当初の計画を下回る結果となりました。その主な要因は以下の通りです。

・ オンライン広告アカウントの凍結（第2四半期に発生）

当社の重要なマーケティングチャネルであるオンライン広告（Meta）のアカウントが、第2四半期の途中で突然凍結され、約3週間にわたり広告配信が停止した結果、資料請求数が大幅に減少いたしました。通常、資料請求は出産予定日の2～4ヶ月前に最も多く行われるため、第2四半期の資料請求数の落ち込みが、当第3四半期の検体数の減少につながりました。

・ 新プラン導入初期の立ち上げの遅れ（2024年11月～）

2024年11月より、新しいサービス（保管）プラン「HOPECELL」を導入いたしました。この新プランでは、月額2,980円（税込）からの支払いプランを設定し、また、さい帯・さい帯血の両方を採取することで出産時に採取できる貴重な細胞を確実に保管し、将来の医療やQOLの向上に役立てていただけるようになりました。今回、新たなコンセプトとして「ご家族皆様での利用」を強調し、従来の「お子様の病気の治療に役立つ可能性」に加えて、さい帯由来幹細胞から作られる培養上清が、ご家族のエイジングケアや健康維持にも活用できることを訴求しました。パンフレットやオンライン広告でもこの点を前面に押し出し、リアルでの顧客対応も統一しましたが、資料請求数が想定以上に伸びませんでした。早急にヒアリング調査を実施したところ、妊娠中の方々は「赤ちゃんが健康に生まれてくるのが最優先であり、妊娠中はエイジングケアには関心が向かない」という傾向があることが分かりました。この調査結果をもとに、パンフレット等の訴求内容や顧客対応を速やかに見直しましたが、導入初期の立ち上げの遅れが影響し、当第3四半期の検体数の減少につながりました。

これらの結果を踏まえ、当社は、来期以降の成長に向けた改善および対応を以下の通り行っております。

1. 新プランの推進

前述の通り、現在、パンフレットや顧客対応の方針を「生まれてくるお子様の将来に備える」という従来のコンセプトに再び統一し、訴求を強化しております。また、今後、万が一オンライン広告アカウントの凍結等のリスクが再発した場合でも依存度を低減できるよう、アカウントの移行、広告媒体の新規開拓を行い、妊婦向けアプリ企業との合同オンラインセミナーを活用した資料請求獲得を図る新たな施策を開始しております。この改善の結果、12月後半より資料請求数は回復傾向にあります。また、新プランでは従来のプランに比べて想定以上の以下の成果を確認しております。

・ 成約率10%アップ

新プランでは成約率が約10%アップしています。月額2,980円（税込）からの支払いプランにより、多くの方々にご利用いただきやすい金額となったこと、また、さい帯・さい帯血の両方を採取することで必ずどちらか一方は将来に備えた保管が可能となったことが成約率の向上を後押ししていると考えられます。

・ 平均単価20%アップ

新プランの平均単価は約20%アップしています。より単価の高い、月額3,980円（税込）で「さい帯・さい帯血の両方を保管できる」プランの需要が拡大しています。どちらか一方を保管するプランに月額1,000円の追加で両方を保管できることから、出産時にのみ採取可能な貴重な細胞を将来のために最大限残しておこうという顧客の意識が高まっていると考えられます。

従来のプランと比較して成約率の向上および平均単価の上昇が顕著に表れており、資料請求数がこれまでと同水準で推移した場合、売上高は約30% (=1×1.1×1.2) アップとなる見込みです。来期以降さらなる資料請求数(検体数)の増加を目指して、引き続きリアル・オンラインのマーケティングに注力し、新プランの普及を推進してまいります。

2. 東南アジア (ASEAN) への事業展開

今後成長が期待される東南アジア市場への事業拡大を進めております。当該地域では年間約1,000万人の出生があり、細胞バンク事業も各地で立ち上がりつつあり、マーケットが大きく成長することが予測されています。こうした市場環境を踏まえ、2024年11月にシンガポールへ地域統括会社「STEMCELL INNOVATIONS PTE. LTD.」を設立し、M&Aも含め現地事業の展開を進めています。

<現在の進捗と戦略>

- ・ シンガポール、ベトナム、タイ、インドネシアの現地企業と交渉中
それぞれの市場環境を分析し、最適な事業モデルの導入を検討しております。
- ・ 事業展開の3つの方法を検討
 1. 自社単独での事業展開
 2. 現地の細胞バンクのM&Aによる参入
 3. 現地の細胞バンクとの資本提携

これらの選択肢を慎重に検討し、来期中の事業開始を目指しております。東南アジア市場は今後の成長を牽引する重要なエリアであり、当社のさらなる飛躍につながると考えております。

3. 神奈川県横浜市に土地を取得

再生医療・細胞治療の発展に伴い、「さい帯・さい帯血」等の周産期組織由来の細胞バンク事業のさらなる拡大と、経営効率向上を目的として、神奈川県横浜市に土地を取得いたしました。当該土地には、2026年末を目処に新しく細胞処理センターおよび細胞保管センターを建設する計画を進めており、当社の生産能力および保管能力の拡充を図ります。これにより、今後増加が見込まれる保管需要に柔軟に対応し、長期的な成長基盤を整備してまいります。また、当該土地の取得のため、株式会社三菱UFJ銀行の金融商品である「脱炭素推進支援 (ESG) ローン」により4億円の資金調達を行っております。

4. 研究開発の進捗

「さい帯血」を用いた再生医療分野(研究開発)につきましては、大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学教室との「自閉症スペクトラム障害に対する自家臍帯血有核細胞を用いた治療法の開発」の臨床研究が始まりました。自閉症スペクトラム障害(ASD)は100人に1人の割合で診断されると言われており、当臨床研究の開始は保管意義の更なる向上に繋がると考えております。その他、高知大学医学部附属病院小児科において脳性麻痺児に対する臨床研究そして、大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学教室を中心としたグループとの低酸素性虚血性脳症(HIE)児に対する臨床研究が引き続き進められております。また、米国においては、FDA認可のもとデューク大学で進められている脳性麻痺児等へのさい帯血投与プログラムへ、当社でさい帯血を保管されている方々が参加されるケースが増加しており、その結果も良好です。

「さい帯」を用いた研究開発につきましては、大阪大学大学院医学系研究科スポーツ医学教室と設立した「運動器スポーツバイオメカニクス学講座」において、新たな半月板治療法の開発を推進しております。また、東京大学医科学研究所セルプロセッシング・輸血部及び東京大学医学部附属病院ティッシュ・エンジニアリング部との小児形態異常等の先天性疾患に対する治療法の開発も、引き続き推進しております。

5. 自己株式の取得(2024年12月18日~2025年11月30日)

株主還元の充実および資本効率の向上を図るため、自己株式の取得を実施いたします。本施策により、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するとともに、将来、役職員へのインセンティブ付与などを通じた企業価値の向上を目指します。

6. 株式の立会外分売

当社株式の流動性向上を目的に、本日付で当社の親会社である株式会社日本トリムが、当社株式の立会外分売（当社発行済株式総数（自己株式を除く）の約2.05%）を実施することを公表いたしました。

これらの活動の結果、当第3四半期累計期間における売上高は2,040,487千円（前年同期比8.3%増）、営業利益は358,820千円（同0.7%増）、経常利益は367,025千円（同2.4%増）、四半期純利益は339,935千円（同33.3%増）と、それぞれの項目で過去最高となっております。

なお、当社は、単一セグメントのため、セグメントごとの記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産合計は7,180,142千円となり、前事業年度末に比べ637,067千円増加いたしました。流動資産は5,480,312千円となり、前事業年度末に比べ965,272千円増加いたしました。これは主に、売上の増加及び分割払いを積極的に活用したことに伴い売掛金が222,269千円増加したこと、借入金400,000千円増加したこと、及び定期預金の払戻等により、現金及び預金が687,094千円増加したことによるものであります。固定資産は1,699,829千円となり、前事業年度末に比べ328,204千円減少いたしました。これは主に投資有価証券の取得300,000千円があった一方、定期預金の払戻500,000千円があったことによるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は4,503,037千円となり、前事業年度末に比べ652,577千円増加いたしました。流動負債は4,042,668千円となり、前事業年度末に比べ282,646千円増加いたしました。これは主に、前受金が251,556千円増加したこと、1年内返済予定の長期借入金40,332千円増加したことによるものであります。固定負債は460,368千円となり、前事業年度末に比べ369,930千円増加いたしました。これは主に、長期借入金359,668千円、役員退職慰労引当金8,563千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は2,677,105千円となり、前事業年度末に比べ15,509千円減少いたしました。これは主に、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加した一方、投資有価証券の売却により、その他有価証券評価差額金が99,217千円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期通期の業績予想につきましては、2024年5月14日「2024年3月期決算短信」にて公表しております。通期業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,845,540	3,532,635
売掛金	1,588,310	1,810,579
原材料及び貯蔵品	42,262	49,905
前払費用	39,731	43,708
その他	3,516	47,535
貸倒引当金	△4,322	△4,052
流動資産合計	4,515,040	5,480,312
固定資産		
有形固定資産	665,155	636,660
無形固定資産	41,609	88,331
投資その他の資産	1,321,270	974,838
固定資産合計	2,028,034	1,699,829
資産合計	6,543,075	7,180,142
負債の部		
流動負債		
買掛金	35,300	38,563
未払法人税等	88,930	103,533
前受金	3,420,493	3,672,049
賞与引当金	50,500	32,075
1年内返済予定の長期借入金	—	40,332
その他	164,796	156,113
流動負債合計	3,760,022	4,042,668
固定負債		
長期借入金	—	359,668
役員退職慰労引当金	27,681	36,245
資産除去債務	56,079	56,224
その他	6,676	8,230
固定負債合計	90,437	460,368
負債合計	3,850,459	4,503,037
純資産の部		
株主資本		
資本金	704,805	704,805
資本剰余金	589,805	589,805
利益剰余金	1,318,386	1,402,158
自己株式	△91	△155
株主資本合計	2,612,906	2,696,614
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	79,708	△19,508
評価・換算差額等合計	79,708	△19,508
純資産合計	2,692,615	2,677,105
負債純資産合計	6,543,075	7,180,142

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	1,884,907	2,040,487
売上原価	670,170	741,959
売上総利益	1,214,737	1,298,527
販売費及び一般管理費	858,502	939,706
営業利益	356,235	358,820
営業外収益		
受取利息	2,299	5,715
助成金収入	685	72
協賛金収入	3,342	2,868
雑収入	482	305
営業外収益合計	6,810	8,961
営業外費用		
解決金	2,117	—
業務委託費	2,526	—
支払利息	—	156
雑損失	—	600
営業外費用合計	4,643	756
経常利益	358,401	367,025
特別利益		
投資有価証券売却益	22,327	136,939
その他	1,746	—
特別利益合計	24,074	136,939
特別損失		
固定資産除却損	8	0
特別損失合計	8	0
税引前四半期純利益	382,466	503,965
法人税、住民税及び事業税	110,700	160,013
法人税等調整額	16,784	4,016
法人税等合計	127,484	164,029
四半期純利益	254,981	339,935

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

当社の事業セグメントは、細胞バンク事業のみの単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

当第3四半期累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

当社の事業セグメントは、細胞バンク事業のみの単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	87,473千円	92,543千円